

第 30 号

平成 17 年
10 月 20 日

題字

植木 満 名誉会長

進 東

発行所

土浦一高東進会
茨城県立土浦一高
進修同窓会東京支部

事務局 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階
宮崎法律事務所 TEL 03-3221-3711 FAX 03-3221-3713
ホームページ http://www.geocities.jp/t_toshinkai/index.html

東進会 平成 17 年度 総会・懇親会 6 月 18 日 学生会館で開催 新会長に大野金一氏を選出 ザイン飯塚哲哉氏が講演



写真：母校弦楽部による演奏

今回の総会・懇親会は、出席者が来賓を含め 132 名、当番幹事は昭和 48 年卒、土浦一高弦楽部演奏(35 分)、総会(25 分)、講演(30 分)、懇親会(2 時間)の順に進行された。

18 日正午、母校弦楽部の演奏が始まり、その演奏は前回と同じく爽やかで聴衆の全てを魅了し、曲目の最後は校歌であった。

総会では、まず前会長・植木満氏(昭 08 卒)の辞任に伴う役員人事として、大野金一氏(昭 31 卒)が理事長兼任のまま会長に選出され、新会長挨拶が行われた。

平成 16 年度決算・平成 17 年度予算審議も順調に進み、進修同窓会副会長・大曾根宏亮氏(昭 27 卒)、土浦一高校長・村松輝美氏(昭 42 卒)のご挨拶を頂き、総会は終了した。

続く飯塚哲哉氏(昭 41 卒)の講演は、ザインエレクトロニクス株式の代表取締役で日本半導体ベンチャー協会会長を兼ねる同氏の卓越した識見によるほか、適切な光量の PC 用プロジェクタ、聞き手側の正面を向いた椅子の配列、さらに懇親会の前の時間設定などの効果が相俟って好評であった。

懇親会では、冒頭、茨城県東京事務所所長・岡田久司氏、進修同窓会副会長・青山和義氏(昭 31 卒)のご挨拶を頂き、本番は最長老の茂在虎男氏(昭 06 卒)の乾杯で始まった。

宴席における海老原順氏(昭 46 卒)の低音のシャンソンと宮本文幸氏(昭 56 卒)のクリスタルボイスも素晴らしいかった。

全体を振り返ると、横断幕の廃止など前年の経費節減路線を継承しつつ内容は楽しく充実していたといえる。当番幹事の皆様、ご苦労さまでした。

ただ次回の当番幹事については、当日、紹介することができず課題となったのは残念であった。

東進会 大野 新会長あいさつ (要旨)



ただいま総会で新しい会長にご決意いただいた大野金一(おおのかねいち)です。昭和31年の卒業です。今回は、48年卒・当番幹事のご協

力で130名を超える皆様に参加いただきました。

ご多忙のなか出席された茨城県東京事務所

の岡田所長様と中村様、本校の村松校長、進修同窓会の大島根、青山・同副会長様に感謝申し上げます。

植木・前会長は、ここ2年くらい足が不自由、薬を30種類ほど服用したためか、味覚障害を起し食事が進まなかったが、薬を改善し、最近は元に戻りつつあります。

先だつての理事会で植木・前会長には名誉会長として引き継ぎわれわれを叱咤激励していただくようお願いすることになっていきます。今年では体調が完全でなく出席いただけなかったが、来年には期待しています。

新会長としての抱負は、これまで理事長を務め今後ともその事務を続けるので特に目新しいことはなく、前から言っている「同窓会とは同窓の皆様が楽しく会えてよかった。また出席したい」という雰囲気づくりに努めたいと思つています。

今年も企画ものとして、去年と同じように、内田先生が率いる母校の弦楽部に、土曜講座を欠席までしてきていただきました。

また、今回初めての試みとして、短時間の特別講演として、日本半導体ベンチャー協会の会長を務める飯塚氏をお願いしており、ホリエモンの話があるかわからないが、楽しいお話をお聞かせいただけるものと思つています。

今後とも時の話題にあつた講演は続けたいので、会員の皆様からのご提案をお願いします。

特別講演

今回は、総会終了後懇親会の前に、日本半導体ベンチャー協会会長の飯塚哲哉氏に「激変するパラダイム ベンチャーが面白い」というテーマで特別講演をお願いした。

ちなみに、「パラダイム」とは、三省堂のハイブリッド新辞林によると、「元來、科学研究を一定期間導く、規範となる業種を意味する用語であったが、のちに一般化され、ある時代の人々のものの見方、考え方を根本的に規定している概念的枠組みをさすようになった」とされている。

また、「ベンチャー(ベンチャー・ビジネスの略)」はよく知られているが、同辞典によると、「新技術や高度な知識を軸に、大企業では実施しにくい創造的・革新的な経営を展開する企業」のことである。

講演の内容 (要約)

激変するパラダイム
ベンチャーが面白い



飯塚 哲哉 氏

▽ 始めに

東進会では同期のマドンナ達が活躍しているとのこと、今回は新会長から譚幹会の席でお誘いがあり、こちらに参りました。

ここは結婚式を挙げたり、母に関わる記念パーティーなどを開いたところで、なつかしい場所、今回のお招きには感謝している。

講演の割当時間は、30分、とりとめのない話となるが、よろしくお願ひしたい。

お手元の資料は2種類、ともに、最新のものですので、御参照頂ければ有り難い。

配布資料

日本半導体ベンチャー協会誌(05年・春)

タックインタヒュー(05年4月及び5月)

▽ 経歴と沿革など

昭和41年・高18回卒、東大では学部から大学院まで9年在籍、その後、東芝に16年ほど務め、開発と経営・管理の勉強をさせて貰った。

東芝当時、シリコンバレー駐在があり、ベンチャーの起業と、その成果の新産業への再投資・雇用の創出など社会への貢献を目の当たりにした。

日本でもベンチャーを立ち上げようと、東芝を退職して91年に創業、動き始めたが、コンサルティング等を主とした事業に甘んじていたところ、幸運にも、顧客の一人である韓国サムスンから合弁のオファー(申し込み)があつた。これを受け92年に合弁会社を設立し、6年後の98年に全株買い取り、MBO(自社株買い取り)による第2の創業を果たした。その僅か3年後にジャスダックで株式上場し、現在も急成長を維持している。

00年日本半導体ベンチャー協会を設立、4年後に社団法人として認められた。

最近、経済同友会でも活動している。年齢と共に同窓会のことをよく考えるようになった。私を含め同級生の人柄も変わったというか、子供に戻つたようで、老いて修業することが益々大事なことと感じている。

▽ 本日の演題

「パラダイムが変わつた」とは、ここ10数年間に競争ルールが変わつたということである。

その最も顕著な変化の始まりは91年のベルリンの壁の崩壊つまり冷戦の終結にある。

その後10数年デフレの時代が続いた。特に国際競争に晒される電機などがひどかつた。

その影響は、あらゆる業種におよびどの業種の大企業でも他社と同じようなことをしているところは軒並み不況で、所謂失われた10数年と呼ばれる時代、誰も勝てぬか、極めて少数の勝ち組しか許さない時代となつた。

▽ 日本の資本主義

ところで、最近ライブドアのマネーゲームが話題となつたが、長い間、日本の資本主義は未熟で、社会主義ではないのかとすらいわ

れて来た。

企業間の株の持ち合いなどで、株主の意志が反映され難いという弊害、銀行による企業の重要な意志決定事項への関与などである。

こうした構造が戦後の日本復興を支えた功績は大なるものがあるが、大企業だけでは、変化の激しい時代には対応できない。

「花の命は短くて」というが、それ以上に人材の能力の旬の時期は短い。特に技術畑で仕事をしていると、その成果を出せる時期は短く、その時期に設備投資なり開発に資金を手当てすることが重要なのである。

日本の資本主義は、多くの企業がバランスシート崩壊と戦う間、この役割を果たせなかつたというのが私の見方である。



飯塚氏の熱井に聞き入る出席者

▽ ベンチャーの役割

資本主義を広く活用して、優れた人材が活躍し、その成果を短期間の内に社会に貢献するというからくり(仕組み)がベンチャーなのである。

この10数年の世界の先進国の研究開発費をみると大企業のそれをベンチャー企業が厚く占めていることが理解できる。

先行きのわからない時代、何を研究開発したらいいかわからない時代には、有能な人材が短期間に結集し、リスクマネーを駆使し、

トライ&エラーを行い、成功すれば産業構造を
変革し、失敗しても再挑戦が可能、言わば
ローコストの試行錯誤を可能にする産業構
造が不可欠で、これは大企業のみという構
造では効率が悪いのである。

ベンチャーとは、単なる坪金主義ではなく
こうした産業構造の一つの重要なしくみの
だ。

▽日本半導体ベンチャー協会

日本は、新興企業に対する投資額が米国・
欧州に比べ、数十分の一と極めて少なく、創
業率・廃業率も貧弱で、創業に関する環境で
は世界の40カ国中、38〜40位という有様であ
る。

「君子は危うきに近寄らず」という文化のあ
る日本において、ベンチャーの成功例を少し
でも多くしようと、00年に任意法人の半導体
と液晶関係のベンチャー協会を立ち上げた。

そのわずか4年後の04年に公益法人たる社
団法人へと発展した。

会員約230社のうち、この4年で株式公
開を果たした会員企業は既に7社もある。大
学発ベンチャーも既に7社である。

▽サインエレクトロニクス

経営理念は「人資豊燃」、人と資本・資金
を燃やす、活かすという意味である。

製品は薄型テレビなどに使用されているL
CD（液晶ディスプレイ）やPDP（プラズ
マディスプレイ）向けの半導体で、フアブレ
ス（工場を持たない）メーカーとして製造を
海外に、一部を国内に委託している。新製品
としては携帯電話機や電源の部品などがあ
る。パラダイムの変化についていくため、成
長する分野を見きわめ、人を活かす経営を続
けたい。

▽終わりに

人間は必ずしも老いれば即ち安らからで穏や
かになれるということではないようである。

何時までも修業が肝心ようで、懇幹会
は10年、20年の先輩が多く、飲みながらのお
付合いを通じた修業を楽しみたいと思ってい
る。

東進会のますますの発展を祈念する。

総会・懇親会場の風景



県東京事務所
岡田所長ご挨拶



進修同窓会
大曾根副会長ご挨拶



土浦一高
村松校長ご挨拶



大先輩・茂在真男氏の乾杯音頭



叙勲（防衛功労）を受けた
小池忠男氏と記念品を贈呈
する長戸副会長



全員での校歌斉唱



懇親会の一場面



シャランソ
滝老原順さん



クリスタルボイス
宮本文幸さん

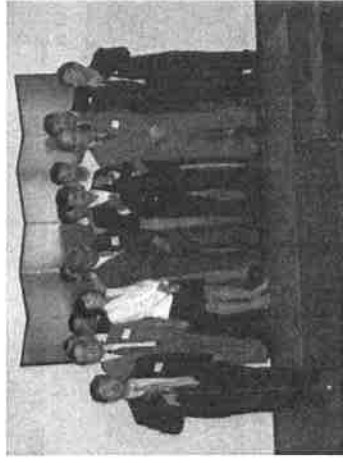


図4.8年卒・当番幹事の皆様、ご苦労様でした



会場を盛り上げた応援指導部OBの演技

植木・前会長に感謝状を贈呈

総会後の役員・幹事会で植木・前会長に感謝状を贈呈することになり、衆議院解散、総選挙でお忙しかったこともあり、9月22日午後、大野会長が植木・前会長宅を訪問し、感謝状を贈呈しました。

記念品は、長戸副会長に真空詰めバラの生花をデパートで買い求めていただいたので、大野会長に同行して植木・前会長の奥様に贈呈しました。

ご夫妻とも大変喜ばれて、十数年に及ぶ長期間、会長として、母校および同総会への思い入れようを語ってくださいました。体調はかなり回復されて、東進会の皆様によろしくとのことでした。



今年も絶好のゴルフ日和

今年も、大型連休中の5月2日(月曜日)に、東筑波カントリークラブで東進会コンペを開催しました。雨天という前日の天気予報を吹き飛ばして、5月2日は雨が朝から止み、絶好のゴルフ日和になりました。

参加者は、茨城組も加わって合計23名でした。

新ペリアによる競技結果は、優勝者が関口幸一さん、準優勝は池田三男さん、3位は菊地清さんでした。また、ベストグロス賞は高木文夫さんが獲得しました。東進会組と茨城組の団体戦では、僅差で茨城組が獲得しました。懇親ゴルフですから、東進会は地元からメンバーを借りての結果で厳密なものではありませんが、茨城組には実力者が揃っていることは間違いないでしょう。

表彰式を兼ねた懇親会では、スコアの善し悪しに関係なく、楽しい雰囲気にお包まれました。

懇親会のお開きでは、一本締めのもと、来年も元気で参加することを誓い合いました。

(企画担当理事・鈴木良治記)



今回のコンペに参加された皆様

謳絆会には新人続々



第85回「宴」での謳絆会に参加された皆様

謳絆会は、榎田藤(中45回)会長以下、関係者の尽力により、第81回から第86回までの月例会同を、次のとおり開催した。

- 第81回 平17・5・12(木) 参加者18名
十条・サツソネロ イタリア料理
- 第82回 平17・6・9(木) 参加者22名
御徒町・池田屋 日本料理
- 第83回 平17・7・21(木) 参加者18名
銀座・がんこ 日本料理
- 第84回 平17・8・4(木) 参加者15名
銀座・竹富島 沖縄料理
- 第85回 平17・9・8(木) 参加者17名
高田馬場・宴 健康料理
- 第86回 平17・10・13(木) 参加者20名
上野・日妃楼飯店 きのご料理

毎回の参加者には、女性会員も数名おり、なごやかなムードのほか、結構な各種料理と、それに合ったビール、日本酒、ワインなどを楽しんでいる。

料理の種類と開催場所・会費などは、月例

の謳絆会幹事会で検討・決定しており、最近の会費は、通信費などを含め7〜8千円ほどにおさえるよう努めている。

謳絆会はあと1年で100回を数える。

最近は、ロコミで、謳絆会の特色ある料理の美味しさは勿論、毎回篠田会長が厳選される銘酒と、何よりも楽しい会の雰囲気も伝わって、新しい会員が増えている。

上の写真は、高田馬場のテラス付きのちよつと洒落た店を借り切って、この店独自の健康メニューと各種銘酒のほか、北川正之会員(昭37卒)が近く始めるカリフォルニアワインの総輸入代理店「オアフィスキタガワ」から特別提供されたワインを楽しみながらリッチな気分になったときのものである。

謳絆会に参加を希望される方は、お一人でも、あるいは同級生など誘い合つて、一度参加してみてください。

連絡先 大野法律事務所

電話 03・35556・97787

FAX 03・35556・97788

土中45回生の卒業写真 土浦市の「広報つちうら」に掲載

土浦市立博物館は、企画展「土浦中学校とその時代」を平17・3・26(土)から平17・5・8(日)まで開催し、昭20年卒(中45回)の渡邊光夫氏が提供したゲートル巻き職闘帽姿の卒業写真ほか、土中関係資料を展示した。

この写真は、平17・4・28発行「広報つちうら」第906号の「つちうら発・未来への伝承」コラムにも取り上げられ、博物館担当学芸員の解説付きで多数の土浦市民に紹介された。

現在、同写真は、博物館常設コーナーで展示されるなど、的確な取り扱いを受けている。

いんぷおめーしょん

倉持功氏(高8回) 「少女まんがの系譜」を出版

早稲田卒業後、集英社の雑誌編集長などを歴任した同氏(ペンネーム二上洋一)は、本年6月、ぺんぎん書房から本書を出版した。



四六判 284頁
発行 株式会社ぺんぎん書房
定価 本体2500円+税

本書は、著者が昭和53年に「少年小説の系譜」で第二回日本児童文学学会奨励賞を受賞以来の力作であり、公立図書館の選定図書に指定されるとともに、書評が共同通信を経て全国各地に配信され15地方紙に掲載された。

目次は、次のとおり。

- 序章 少女まんが前史
 - 第一章 少女まんが始動す!!
 - 第二章 中村書店と赤本と少女雑誌の盛衰
 - 第三章 手塚治虫と男性の描く少女まんが
 - 第四章 物語の復権
 - 第五章 王道を奔る二人
 - 第六章 少女まんがの黄金期
 - 第七章 路線を見きわめよ!!
 - 第八章 感性の結晶
 - 第九章 少女まんがの可能性
- おわりに

巻末60頁ほどを占める作品年表は、マンガ研究者であるヤマダトモコさんの協力制作によるものである。

著者は、本書のねらいとして、「この書は、評論書でもないし研究歴史書でもない。：中略：本格的な評論や研究に到るアクセスの一助となれば、それだけで満足である。資料が散逸したり、少女まんがの世界に関するエピソードが振じ曲げられて残ったり、消滅する前に、あるがままの形で後代に伝えたいというのが真意である」と序章で述べている。

このように、学術書の一環ともいえるのが本書であるが、まんが世代に属さない堅物の記者にとっても「のらくろ」の田河水泡などの記述があり、親しみが持てる内容であった。

さらに、記者の知人でマンガ愛読者であった30代の女性に本書を持参したところ、その場で「こんな本を読みたかった」との感想をたまわり、好評であった。



「少女まんがの系譜」出版記念パーティー

平成17年7月25日には、学士会館で、高8回有志が發起人となり、「少女まんがの系譜」出版記念パーティーが開かれた。

著者、協力制作者、ぺんぎん書房関係者と

高8回、高15回、高18回の諸兄諸姉、さらに高8回と同年代の土浦二高出身者が計40人ほどが集まり、会食の後、著者のスピーチと質疑応答が実施されるなど、なかなかの盛会であった。

その最後に、著者から推理小説35年秘史、宮沢賢治、少年まんが、サトウハチローなどを書きたいと考えており、「評伝サトウハチロー」は脱稿済みのお話があった。今後ますますの活動を期待したい。

土浦二高剣道部OB会 五十周年記念文集を発行

旧制中学の剣道部は、昭和20年11月のGHQからの武道教育の禁止指令により廃部され、その後、昭和27年4月のしなない競技の解禁、昭和28年7月の高校以上における剣道教育の実施承認などがあり、復活、土浦二高剣道部(しなない競技部)は、昭和28年に創部された。

剣道部OB会の発足は、昭和29年夏で、昨年、50周年となった。これを契機に記念文集について、発行の機運が高まり、委員会が諸準備を進め、本年8月に印刷製本を完了、予約者に送付された。



本文集は、諸先生、OB、おおよそ40人ほどの寄稿からなり、大型で約140頁にも及ぶ内容は賑やかで、各種資料や各方面に

活躍の同窓生と交流の話題づくり、相互理解に役立つものとなっている。

若干、在庫があるとのこと、有料とはなりません。入手を希望される方は、左記まで、ご連絡願います。

橋本 秀樹 氏(高25)(じゃしんやe)
TEL 029-835-8213
FAX 029-835-8214
大久保 博 氏(高37)(大久保写真館)
TEL 029-823-8385
FAX 029-824-7118

応援指導部OB会 創部40周年 記念誌をインターネットで公開

応援団ではない応援指導部が昭和39年に創部され、昨年、40周年を迎えたのを記念して公開されている。

公開内容は、PDF(画像を含む文書表示用に普及したファイル形式)によるもので、文書ファイル25頁と写真ファイル4頁から構成されている。

これらの内容は、当時の山田校長(昭38卒)、中川土浦市長(昭39卒)の挨拶を始め、顧問の先生、硬式野球部の関係者、歴代の応援指導部の主将など数10名が寄稿したものである。その中には東進会の役員・幹事などが6名ほどおり、剣道部の記念文集と同じく同窓生の交流と相互理解に役立つものと考えられる。

写真は、もちろんカラーで、東進会における校旗競技や04年に新調の校旗制定百年記念旗も収められている。

東進会のホームページにリンク(連結)しており、接続は容易なので、多くの皆様方の閲覧をお勧めします。

県立高校 平成18年度から通学区域を廃止 全県一学区に

平成17・7・27 茨城県教育委員会決定

平成13年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」改正により、通学区域の設定については、都道府県の教育委員会の自主的な判断に委ねられた。これを受け平成17年度までに全国の8都県が高校の通学区域を廃止している。

このような流れを背景に、県教育委員会は、母校の村松校長など有識者30名で構成された関係協議会の検討報告を受けて、標記のとおり決定した。

本年度の中学3年生から適用開始され、これまで以上に自分の進路希望にあった高校を選択・受験できるようになる。

左表「中学校生徒数」は、平成17年度東進

会総会時6月18日に、母校から配布された平成16年の夏頃作成の受験者向け資料から、その一部を転記したものである。同じ総会時、村松校長は、「土浦一中と土浦四中だけで毎年それぞれ40名から50名入学していた時代とは大きく変わり、出身中学は県南に広く分散している」と説明している。

左表の内容は、当然、平成4年度から施行された茨城県の5個通学区域と隣接区域からの30%越境通学枠に対応したものと見える。

現在の中学校の所在地と通学区域は、調べ切れなかったが（その他県内と県外は調査対象外）、第4通学区域内の土浦市に所在するのは土浦第一から都和までの7中学、第5通学区域内のつくば市に所在するのは、筑波東から吾妻までと荻壳、高崎の11中学であるので、参考までに紹介する。

編集後記

遅くなりましたが、今年度東進総会・総会の特集号をお送りします。（本号は、編集者がPDFファイルで作成した各ページをそのまま印刷所で印刷してもらいました。）

大野金一新会長の紹介については、近く11月初旬に発行予定の進修同窓会会報6頁に、弁護士としての活動や在校生へのアドバイスも含めて掲載される予定なので、そちらをご覧ください。

飯塚哲哉氏の講演の内容は、氏の伝えたいことが十分お伝えできる心配ですが、紙面の都合により要約で掲載させていただきました。

今回も、総会に出席された皆様会員のお写真を掲載させていただきました。受付時の写真撮影にご協力いただき有り難うございました。

た。おかげさまで、もれのない撮影が実施できました。

今年度も賑やかな楽しい懇親会となりました。

会場写真担当の沼里様（昭33卒）、ビデオ担当の高山様（昭41卒）、ご苦労様でした。東進編集に不可欠の貴重な資料を得ることができました。

情報提供、寄稿をいただきながら、今回、掲載にいたらなかった皆様方には、深くお詫び申し上げます。寄稿分につきましては、次回掲載とします。

東進会の宮崎事務局は、総会の準備、後始末のほか東進の発送など諸業務を処理しています。

東進の編集業務と懇親会の連絡事務に限っては、当分の間、大野法律事務所が担当します。

出身中学校生徒数

学年	1年	2年	3年	計
中学				
土浦第一	11	22	12	45
土浦第二	17	4	10	31
土浦第三	6	9	9	24
土浦第四	20	13	22	55
土浦第五	7	14	9	30
土浦第六	13	8	14	35
都和	4	1	5	10
小川南	2	4	1	7
小川北	1	2	1	4
美野里	4	3	2	9
岩間	7	5	3	15
石岡	3	5	9	17
府中	3	2	5	10
石岡城南	1	2	3	6
国府	3	4	5	12
龍ヶ崎愛宕	2	3	3	8
長山	6	14	12	32
城西	6	6	1	13
中根	5	9	8	22
城ノ内	5	1	4	10
取手第一	1	5	2	8
戸頭	1	3	1	5
野々井	1	5	1	7
牛久第一	7	3	7	17
牛久第三	9	8	10	27
下根	3	3	1	7
牛久南	6	6	7	19
筑波東	3	2	2	7
大塚	2	2	0	4
谷田部	1	2	3	6
手代木	11	12	8	31
桜	5	2	4	11
竹園東	17	15	11	43
並木	8	17	15	40
谷部東	7	6	13	26
宮崎	18	12	15	45
江戸	5	3	1	9
美浦	4	3	1	8
阿見	1	2	4	7
竹来	3	4	3	10
荻崎	1	3	3	7
高崎	1	2	1	4
龍ヶ崎南	2	3	1	6
龍ヶ崎北	3	2	4	9
柿岡	4	2	4	10
園部	5	2	0	7
八郷南	0	2	2	4
千代田	7	2	2	11
下稲吉	9	6	14	29
新治	2	3	5	10
伊奈	1	1	2	4
守谷愛宕	5	2	5	12
御所ヶ丘	3	6	2	11
けやき台	4	2	2	8
藤代	1	4	2	7
藤代南	7	10	9	26
利根	5	0	1	6
その他県内	20	16	11	47
県外	7	9	7	23
計	326	323	324	973

東進会 平成17年度
総会・懇親会 出席者名簿

() は卒業年次

来賓

東進会会員

敬称略



土浦一高校長
利弘 輝美 様
(昭42)



酒寄 和郎(昭20)



松尾 一郎(昭20)



川村 博通(昭27)



米山 賢二(昭30)



田崎 秀男(昭31)



運 幸治(昭31)



片岡 宏之(昭32)



小田倉 光伸(昭37)



茂在 真男(昭06)



白井 昭雄(昭20)



神林 一芳(昭22)



池澤 卓(昭28)



菊地 清(昭31)



鷺木 修(昭31)



矢口 勝英(昭31)



服部 誠雄(昭32)



林 幸子(昭37)



茨城県東京事務所長
岡田 久司 様



大塚 保(昭20)



高野 一孝(昭20)



山藤 和夫(昭23)



小池 忠男(昭28)



高特 功(昭31)



中島 進(昭31)



山田 晴康(昭31)



佐々木 弘司(昭33)



矢口 照雄(昭37)



茨城県東京事務所
政策員 中村 隆 様
(昭55)



狩谷 孝雄(昭20)



田中 和夫(昭20)



酒寄 恵行(昭24)



砂川 憲二(昭28)



酒井 隆二(昭31)



中村 信秀(昭31)



渡辺 隆(昭31)



沼里 征二(昭33)



刈込 優二(昭38)



進修同窓会副会長
大曾根 五兵衛 様
(昭27)



栗栖 三男(昭20)



廣瀬 真郎(昭20)



砂山 嘉幸(昭24)



池田 三男(昭29)



坂本 善之(昭31)



中本 青士(昭31)



阿部 尚光(昭32)



土金 雅雄(昭36)



高野 忠(昭38)



進修同窓会副会長
青山 和養 様
(昭31)



坂井 祥司(昭20)



廣瀬 敏夫(昭20)



大竹 栄一(昭27)



幕内 仁三(昭29)



高野 久弘(昭31)



沼尻 正信(昭31)



伊藤 真(昭32)



宮本 昌子(昭36)



中島 禎(昭38)



野村 ルナ(昭38)



今泉 房子(昭41)



中島 忠男(昭41)



山岡 憲(昭41)



宮崎 好廣(昭43)



鈴木 良治(昭45)



篠岡 夏弓(昭46)



大峰 雅樹(昭48)



矢口 泰士(昭48)



伊東 明彦(平05)



宮本 誠之(昭38)



岩佐 徳二(昭41)



長戸 馨(昭41)



山村 章(昭41)



柳沢 成二(昭43)



出沼 繁次(昭45)



橋本 照実(昭46)



香取 あつ子(昭48)



矢口 博之(昭48)



栗本 護(平07)



鈴木 達(昭39)



小野 利夫(昭41)



仁平 典子(昭41)



湯原 敏(昭41)



渡辺 慎一(昭43)



平松 美恵子(昭45)



山中 宣明(昭46)



君山 利男(昭48)



柳澤 泰男(昭48)



山本 厚(平07)



池和田 暁(昭40)



桂 栄治(昭41)



初田 正雄(昭41)



小林 隆一(昭42)



渡辺 孝男(昭43)



蛭原 秀和(昭46)



井坂 公明(昭48)



柴原 至(昭48)



吉田 正史(昭48)



飯塚 泰助(昭41)



甲田 三壘(昭41)



久松 権明(昭41)



木村 繁夫(昭43)



岡崎 孝宣(昭44)



小野 幹夫(昭46)



海上 裕之(昭48)



福田 洋一(昭48)



若松 洋治(昭53)



飯塚 哲哉(昭41)



高山 了(昭41)



矢口 賢(昭41)



常山 浄子(昭43)



渡辺 長治(昭44)



大熊 毅(昭46)



太田 滋徳(昭48)



本多 満(昭48)



酒井 学雄(昭56)



市村 誠(昭41)



竹下 圭子(昭41)



安井 恵子(昭41)



藤内 邦夫(昭43)



猪俣 勝広(昭45)



株木 博(昭46)



小坂部 充功(昭48)



本橋 浩道(昭48)



宮本 文幸(昭56)

その他
 親類全賢を
 総括し、親類
 会に納入した
 が当日は無名
 だては、次の4
 名である。

木島 幸夫(昭54)
 上田 龍児(昭49)

山口 進(昭20)
 菊地 順一(昭30)